



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / キャベツ、スイカ、他

田中 悠介さん (22歳)

(営農地 / 北九州市若松区有毛)

お客さんの「美味しかったよ」がやりがいに

《就農のきっかけ》

生まれたときから決まっていた

地元農業高校を卒業後、県農業大学校へ進学、卒業後、すぐに就農という農業後継者としては正統な経歴の持ち主の田中さん。農業を職業とすることについては「生まれたときから決まっていました。」とさらりと答えました。

「小さい頃から家の農業の手伝いをしていました。自分は将来農業をするものと思っていました。学校が休みのときは家の農業を手伝っていたので、就農してからも特に変わりませんが、農業が好きです。」と、まっすぐに答えてくれました。学校がお休みのときにも家の農業を手伝っていたなら、ずっと休みがないですよね?との問いに、「今も休みはないです」と、爽やかに答えます。

《これまでの過程》

家族や仲間がいるからできる

「自分の家では、とにかく家族でよく話しています。そうじゃないと農業ってできないと思うんです。就農をしてから、「作物をつくるのは難しい」、「自分ひとりだったら難しい」という実感がますます沸きました。」

「それから、同世代の仲間づくりは大切です。グリーンサラダクラブという地域の若い農業者の組織に入っています。仕事のことからなんでも相談できるし、皆で稲の苗を配達したり、研修に行ったりしています。」と、家族と仲間の存在が田中さんを支えていることが伝わります。

「農業って、食べ物を作る仕事なので、美味しい野菜を作ってお客さんに『美味しかったよ』と言われたとき、本当に農業をして良かったと感じます。農業は、土づくり、種まき、収穫などすべて自分が関わった仕事なので、その結果に“やりがい”も感じます。」一方で、「頑張っって作ったものがそれに見合う値段で売れるわけじゃない。」と話し、厳しい現実にも直面しています。



プロフィール

■家族構成 / 父、母、本人 ■営農年数 / 約2年
■従業員数 / 1名 ■耕作(経営)面積 / 約4ha ■販路 / JA共販

《これからの展望》

6次産業化を目指して

現在、田中さんの農園では、収穫したばかりのブルーベリーを使った自家製アイスクリームとスイカの直売という、6次産業化への取り組みを計画しています。

「就農してからキャベツ、スイカ、カボチャ、ブルーベリーを少し増やしてきています。自分は、人をどんどん雇って規模を大きくしたいと思ってないんです。将来はお嫁さんと一緒にやっていける家族経営農業をしたいと思っています。一緒に加工や販売をやっていたらいいかな。」と、田中さんらしい夢を語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

農業は本当に甘くないです。最近、農業をしたいという人が、簡単に誰でも出来るって思っているんじゃないかと気がなります。